

# 「世界ハンセン病の日」によせて

フランスのラウル・フォレローが提唱した、毎年1月最終日曜日の「世界ハンセン病の日」には、世界各地でハンセン病を正しく理解するための活動が行われています。日本のハンセン病患者は、2005年を境にゼロとなり、以後感染者は見られません。ハンセン病は感染力が極めて低く、仮に感染しても薬で完治する病気です。

## 無癩県運動のはてに

岡山県長島には、「おくこうみょう邑久光明園」と「ながしまあいせい長島愛生園」の二つの国立療養所があります。入所している人たちは、病気が完治していますが、高齢化や後遺症、偏見や差別のために社会復帰ができず、療養所を「つい すみか終の棲家」にしています。



療養所の歴史は古く、長島愛生園は、1930年に日本で初めての国立療養所として誕生しました。時を同じくし、当時「らいびょう癩病」と呼ばれた患者を施設に強制収容させて、県内から癩を無くそうとする無癩県運動が起こりました。国の政策として療養所への隔離が行われたのです。その結果、大人だけでなく、親から引き離された子どもまで入所させられるという事態が起こりました。故郷で帰りを待つ人、入所した人、お互いの家族を想う心は、深い悲しみの底にあったと思われま

## 心をつなぐ人間回復の橋に

「最愛の家族に一目会いたい」という思いで、島から泳いで抜け出そうとした患者がいました。短い海峡でしたが、流れが速いために水死するという悲しい出来事が後を絶たなかったそうです。

「断ち切られた長島と本州を結ぶ」、その思いが込められた橋、「おくながしま邑久長島大橋」が、療養所の人たちの長い闘いの末に、1988年に架けられました。療養所の人たちは、人間としての権利を取り戻す一歩として「人間回復の橋」と名付けました。

今、療養所では、ハンセン病の回復者が、次々に亡くなっています。私たちは、療養所で生活をしている人たちの思いに寄り添うためにも、この橋を本当の「出会いの橋」にしたいものです。

